

# CASBEE<sup>®</sup> 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	久御山物流センター	階数	地上4F
建設地	京都府久世郡久御山町佐古外屋敷	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	220 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	6,570 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年6月 予定	評価の実施日	2011年8月10日
敷地面積	25,159 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社大林組
建築面積	16,435 m <sup>2</sup>	確認日	2011年8月10日
延床面積	56,212 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社大林組



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
①参照値 100%  
②建築物の取組み 85%  
③上記+②以外の 85%  
④上記+ 85%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	計画建物は倉庫棟と事務所棟からなる複合用途の物流センターである。倉庫棟(工場)と事務所棟(事務所棟)の床面積比率が98:2となり、大部分の評価項目が倉庫棟スペックとなる。倉庫部分は階高、床荷重、壁長さ比率等サービス性能を重視している。また太陽光発電システムを導入し、自然エネルギーを有効に活用している。外構空地部分にも積極的に緑化を計画し、周辺環境や魅力ある景観作りにも配慮している。	<b>その他</b> 特記事項なし
<b>Q1 室内環境</b>	・建築材料において、ほぼ全面的に規制対象外材料を使用 ・空気取入口と各種排気口との間で6m以上の離隔距離を確保	<b>Q2 サービス性能</b> ・倉庫棟業者詰所の天井高を2.7m確保 ・便所を全て水洗い可能とし、また清掃用流しや清掃用具庫を確保することで、維持管理についても配慮を実施 ・設備配管について長寿命化に配慮した材料を使用
<b>LR1 エネルギー</b>	・屋根面に太陽光発電システムを設置	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・リサイクル建材3種を使用 ・外壁躯体と内壁を分別可能な二重壁とし、建築材料及び設備材料が容易に分別可能な計画
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 特記事項なし
		<b>LR3 敷地外環境</b> ・適切な駐車、駐輪場を敷地内に確保し、交通負荷を抑制 ・燃焼機器を使用せず、大気汚染を発生しないよう配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される